

生き生き

NO. 99 令和3年6月号 岡崎市現職研修・生活科・広報部発行

アサガオを育てるわたし

生活科部長

倉地 耕治

1年教室の外に置かれたプランターに、アサガオの本葉が育ち始め、子供たちは、ペットボトルのじょうろで水遣りに励みます。アサガオの成長に命を感じ、開花を楽しみに待っています。しかし、教材用のプランターにまいた種は8粒。さすがに窮屈になってきました。担任は、間引きの機会をうかがいます。「葉っぱが重なってきた」という子供の言葉を取り上げ、「第1回アサガオ会議」が開かれました。

ようかん台をプランターに見立て、種と同じ8人の子供を乗せてみます。見ている子供たちから「せまそう」と言葉が漏れます。アサガオの窮屈な現状を実感させたところで、「何本か残して、あとは引っこ抜いた方が、広がって大きく育つけど、みんなはどうする」と問いかけます。一瞬、にぎやかな教室がシーンとします。「大きくなってほしいから引っこ抜く」「きれいな花を咲かせたいから抜く」という子もいれば、「花の数が減るから抜きたくない」「抜くとさびしいから抜かない」という子もいます。抜いたアサガオは、家で育てたり、畑に植えたりできるよ」と担任が後押しするが、間引きをしないと決めた子も数人。プランターに残す数は、1本から6本まで子供たちが自分で決めて間引きを行いました。



学習のスタートから、アサガオの成長、アサガオの変化を語っていた子供たちが、「間引き」という経験を通して、自分の思い、自分の願いを言葉にした瞬間でした。それは「わたしが育てるアサガオ」が「アサガオを育てるわたし」に変わった瞬間なのかもしれません。学級でかかわり合い、自分自身の願いを自覚する機会を設定したからこそその学びの深まりです。



翌朝、愛おしそうに水遣りをする1年生は、まるでアサガオと会話しているようです。

「アサガオは何て言ってた?」と問いかけてしまうのは、私だけではないでしょう。

研修のご案内

授業力アップセミナー

- 日時 7月28日(水) 13:30 ~ 16:00
- 場所 総合学習センター
- 内容 授業実践報告と質疑応答
講師の先生のご指導と講話
- 講演 愛知教育大学 教授 加納誠司先生
演題:「生活科における個別最適な学びと協働的な学び」

愛知県生活科教育研究大会

- 日時 8月3日(火) 12:40~
- 場所 ライフポートとよはし
- 講演 文部科学省 教科調査官
齋藤 博伸 先生

多くの方のご参加をお待ちしております。

